

平成29年度第1回仙台市食育推進会議 議事録

開催日時	平成29年6月26日（月）15時00分～17時00分
開催場所	仙台市役所本庁舎2階 第一委員会室
出席者	
委員 （順不同・ 敬称略）	相澤かず子 蘆澤義章 小島芳 亀山季代子 熊谷和裕（会長職務代理者） 齋藤浩美 柴崎浩一 白川愛子 菅原哲平 高澤まき子（会長） 原田美和 渡辺淳子 佐々木洋 福田洋之 石川浩史（横山農林部長代理出席） 大越裕光（木村総務企画部長代理出席） （欠席委員：青沼清一 中野俊昭 平間正浩 南文子）
事務局	市民局 消費生活センター所長 健康福祉局 次長 保健衛生部長 健康政策課長 生活衛生課長 子供未来局 子供保健福祉課長 運営支援課長 経済局 農林部長（委員代理） 農食ビジネス推進室長（代理出席） 中央卸売市場業務課長 太白区保健福祉センター 衛生課長 泉区保健福祉センター 家庭健康課長 教育局 総務企画部長（委員代理） 総務企画部参事兼健康教育課長 生涯学習課生涯学習係長（代理出席） （欠席：環境局 廃棄物企画課長）

次第	1 開会 2 あいさつ 3 新任委員紹介 4 職員紹介 5 議事 (1) 平成 29 年度食育推進事業計画について (2) 仙台市食育推進計画〔第 2 期〕 後期計画策定に向けて (3) その他 6 閉会
----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

発言者等	
<開会> 進行	<p>お待たせしております。定刻 3 時の開始になりますが、議事の円滑な進行のために、はじめに資料の確認だけさせていただければと思います。</p> <p>本日の資料でございますが、資料一覧をご覧くださいと存じます。資料 1 から資料 6、参考資料 1、参考資料 2 につきましては、委員の皆様には事前にお送りしていたものでございます。本日お忘れの方いらっしゃいましたらお知らせください。また資料の 2 につきましては、落丁があり、差し替え版を机の上に置かせていただいておりますので、差し替えをお願いいたします。</p> <p>本日新たに追加した資料といたしましては、仙台市食育推進計画第 2 期の概要版、仙台市民の健康意識等に関する調査・市政モニター調査・8020 達成率調査報告書という水色の冊子、その次に平成 28 年度仙台市食育推進会議関係団体と食育推進取り組み事例集でございます。また本日みやぎ・環境とくらし・ネットワーク事務局の菅原委員より「ご協力のお願い」という資料を 1 枚提供いただいておりますので、ご確認いただければと思います。では定刻までもうしばらくお待ちください。</p> <p>お待たせいたしました。定刻になりましたので、ただいまから平成 29 年度第 1 回仙台市食育推進会議を開催いたします。はじめに本会議を代表いたしまして、高澤会長よりごあいさつをいただきたいと存じます。よろしく申し上げます。</p>
<挨拶> 高澤会長	<p>皆様、こんにちは。会長を仰せつかっております仙台白百合女子大学の高澤と申します。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。皆様それぞれの立場におかれまして、さまざまな企画により、食育推進活動を進められていらっしゃいますこと、誠にありがたく思います。国の第 3 次食育推進基本計画が打ち出され、食育に関しましては、さらなる強化、拡充をしていかなければならない状況でございます。</p>

	<p>食に関わるさまざまな問題が山積しており、私たちのみならず、次世代の人たちのためにもよりよい食生活、食環境を残していかなければならないと思っております。そのためにも私たちの活動というのは、非常に重要性が増してきているのではないかと考えているところでございます。</p> <p>今回の第1回の食育推進会議におきましては、情報を共有しつつ、意義のある会議とさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
進行	<p>ありがとうございました。ここで人事異動に伴いまして、新たに委員に就任いただきました方をご紹介いたします。仙台歯科医師会 柴崎浩一様でございます。</p>
柴崎委員	<p>どうぞよろしくお願い致します。</p>
進行	<p>仙台市保育所連合会 原田美和様でございます。</p>
原田委員	<p>よろしくお願いいいたします。</p>
進行	<p>お二人につきましては委嘱状を机上に配布させていただいております。ご確認いただければと存じます。続いて本日出席しております事務局側の職員を紹介いたします。村上健康福祉局次長でございます。</p>
健康福祉局次長	<p>どうぞよろしくお願いいたします。</p>
進行	<p>石澤保健衛生部長でございます。</p>
保健衛生部長	<p>よろしくお願いいいたします。</p>
進行	<p>また関係課の職員が出席しております。お手元の市職員出席者名簿をご覧ください。どうぞよろしくお願いいたします。ここで議事に先立ちまして、本日の会議の成立についてお知らせいたします。本日は青沼清一委員、中野俊昭委員、平間正浩委員、南文子委員から欠席の連絡をいただいておりますが、現在15名の委員にご出席いただいております、過半数の出席となっておりますので、仙台市食育推進会議条例第7条の規定により、本会議は成立しております。</p> <p>尚、本日は仙台市経済局長の代理として横山農林部長が、また仙台市教育長の代理として木村総務企画部長が出席しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。資料につきましては先ほど確認させていただきましたがよろしいでしょうか。それではこれからの進行につきましては、会長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいいたします。</p>
高澤会長	<p>それでは委員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。議題に移ります前にまず議事録署名人につきまして、私のほうから指名をさせていただいてよろしいでしょうか。それでは本日の議事録署名につきまして</p>

	<p>は、白川愛子委員にお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは議事に移らせていただきます。議事1の平成29年度食育推進事業計画についてでございます。通常、第1回の食育推進会議におきましては、昨年度の事業実施状況を委員の皆様からご発表していただいておりますけれども、本日は後半に仙台市食育推進会議第2期の後期計画についての議事がございますので、参考資料1と本日配布されました事例集を後ほどご参照いただければと思います。</p> <p>それでは各主体の皆様から平成29年度の新規事業や拡充事業などを中心にご紹介をいただきまして、皆様と共有したいと思います。資料1に基づきまして、ご発言はお一人2分程度を目安に、また資料のページ番号も合わせてお話ししたいと思います。よろしくお願ひいたします。では子どもたちとその保護者を対象とした取り組みから、仙台市小学校長会 熊谷委員、お願ひいたします。</p>
熊谷委員	<p>仙台市の小学校長会を代表して参っております、向山小学校の校長の熊谷でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。資料のほうは6ページをご覧いただければと思います。</p> <p>仙台市内の各学校ではそれぞれ、食に関する指導の手引きというのを基にしまして、全体計画、年間指導計画を作成し、教育活動に食育を取り入れて推進しているわけでございます。今年度特別新たな企画、取り組みというものはないのですが、それぞれこれまで継続してきたことを進化推進していくというような方向で見直しを図り、実践を継続しているところです。</p> <p>毎日の給食の時間を活用した食育に、特に注目をしまして、2番の給食の時間における食に関する指導の充実を目指しています。毎月19日を食育の日、それから食育月間ということで、6月と11月ですか、特に重点化をして普及啓発を行っております。</p> <p>地場産品の活用も、特に経済局さんとの連携等もいただき、できる限り使っていくという方向で、予定を組んで実践しております。1月には給食週間の取り組みを、子どもたちの主体性を生かした活動ということで行っています。献立表、給食だよりによる啓発も行いながら、直接保護者の方と関わる場面としまして、給食の試食会、親子料理教室というような行事も計画しながら、学校、それから家庭生活の中での望ましい食習慣の育成を目指し、家庭との連携、地域との連携を図っているところでございます。</p> <p>研究のほうでは食育の実践研究ということで、教諭と栄養教諭、学校</p>

	<p>栄養職員とが一緒になった研究会がございまして、小学校の場合ですと7つの地区に分かれて、それぞれテーマを設けて実践活動を行っています。中学校は1つまとまった活動ということで、今年度は11月に宮城県の研究大会を、仙台市で行うということで、それに向けて実践発表の準備をこれから進めていくところでございます。今年度の主な計画はそういったところでございます。よろしくお願いいたします。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。続きまして仙台市PTA協議会蘆澤委員、お願いいたします。</p>
蘆澤委員	<p>仙台市PTA協議会の蘆澤と申します。私たちのほうでは今年度63年に1回の順番で、輪番で回ってくる全国大会がございまして。そこで各10会場の分科会が8月25日、そして26日に全体会という運びになっております。</p> <p>その中の1つの分科会である健康安全という領域では、子どもたちの健康な心と体を育む食を求めて、「こ食」という課題を取り上げております。「こ食」と言っても、いろいろな漢字の「こ」がつく食というものがございまして、その中では子どもの、一人だけで食べる食事の「孤食」だったり、家族と一緒にでもそれぞれ違うメニューの食事だったり、あとは同じものばかり常に固定したものであったり、あとは意識的に行っている「小(少)食」であったり、あとはパンとか麺とか、そういう粉物を使った食事であったり。</p> <p>あとは「こ食」でもスナック菓子など、塩分を過剰に取り過ぎた濃い味の食事だったり、そういうものを取り扱いながら、子どもたちに食の文化を改めて学んでもらうためのテーマとして、研究課題を講師の先生に聞いて、説明していただき、学んでいただくということにしております。</p> <p>やはり今の子どもたちは、食事によって常に栄養バランスが取れているかと言えば、なかなかそうでもない。やはりこれから成長していく子どもたちにとっては、バランスのいい食事を取りながら集中力を高めて、勉強のほうに力を入れていただくことが望ましい。あとは体を動かすことも望ましい。そういう感じで取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
高澤会長	<p>はい、ありがとうございます。それでは続きまして幼稚園連合会小島委員、お願いいたします。</p>
小島委員	<p>はい、仙台市私立幼稚園連合会を代表して参りました、認定こども園みどりの森の園長をしております小島と申します。よろしくお願いいたします。仙台市私立幼稚園連合会としても、新たな取り組みというのは</p>

	<p>特段ないんですけれども、幼稚園としても食育計画を立てなければいけないということから、各園それぞれに一生懸命食育の取り組みをしているところがございます。</p> <p>今年度特に重点を置いてさせていただくのが夏期研修会において、食育の研修会を行いまして、情報交換であったり、今の食育計画の見直しについて学ぶ機会を設けたいと思います。大体集計が終わりまして、145名の出席者がいるということで、私立幼稚園連合会の夏期研修会の中でも、上から2番目に出席者の多い研修会になっておりますので、やはり先生方の食育に対する興味関心は非常に大きいものがあるなと感じています。</p> <p>あとはそれぞれの園で、食育の取り組みというのは盛んに行われていまして、そのことを仙台市の私立幼稚園連合会の研修委員と推進委員が、働きかけをしながら、どういった取り組みをしているのかという情報収集を毎年行っています。今年度もそのようなことを開始しているということです。</p> <p>あとは事例集を見ていただくと、各園の取り組みがわかると思いますが、そのほかにも未就園児のお子さんへの離乳食教室を実施したり、園だより、給食だより等で、親御さんに対する周知なども各園さまさまざまな形ではありますけれども、行っているということです。以上です。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。続きまして保育所連合会の原田委員、よろしく願いいたします。</p>
原田委員	<p>今年度より保育所連合会の代表として参りました、カール英会話保育園の園長をさせていただいております原田と申します。どうぞよろしく願いいたします。保育所連合会の29年度の食育推進事業について、主な取り組みについてですが、資料8ページにあります事業名1、保育所連合会栄養士研修等をご覧ください。栄養士研究委員会において毎年テーマを設けて、研究発表を実施し、成果を上げているところがございます。</p> <p>平成29年度は和食をテーマに研究を進めていく予定です。日本の伝統的な料理や味について、子どもと保護者に伝えていくことを狙いとして検討してまいります。合わせて家庭に向けては和食に親しんでもらい、家庭での食事に取り入れてもらえる情報や料理を掲載したリーフレットを配布する予定であります。</p> <p>保育所連合会栄養士研修会では、毎年栄養士の資質向上のための研修会を実施しております。平成29年度は食物アレルギーの食事と保育所での対応というテーマで講話を受ける予定です。食物アレルギーについて</p>

	<p>の最新の知識を学びながら、食物アレルギーを持つ子どもへの食事提供について、各保育所で安全に対応するための研修としています。</p> <p>2の事業名、保育所連合会給食担当者研修会についてです。食事の提供の際は生活習慣病の予防、乳幼児期からの健康的な食習慣の形成のために、食塩の摂取量について十分な配慮が必要と考えております。そこで今年度の調理実習では、毎日の給食で薄味でもおいしい子どもの食事というテーマで、内容を考えて実施してまいります。</p> <p>実施した内容をそれぞれの保育園で給食に取り入れて、子どもたちへの健康的な食事の提供につなげてまいります。講話としては職員間での連携をうまく図り、子どもたちに安全でおいしい食事を届けるための、職場内のコミュニケーションについて研修を実施する予定です。以上です。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。それでは地域住民の健康づくりの取り組みから、食生活改善推進員協議会の相澤委員、お願いいたします。</p>
相澤委員	<p>仙台市食生活改善推進員協議会の相澤でございます。仙台市の食改は宮城と秋保の2地区で行っております。10ページをお開きください。食育の日の、毎月19日のアピールは、宮城地区のほうで行っております。</p> <p>それから具体的な取り組みとして、①-D-2の1番が食生活改善普及事業として、野菜を食べよう料理講習会は、秋保幼稚園の保護者と一緒に1月に実施する予定でございます。それから2番が宮城地区の、ヘルスメイトが繋ぐパートナーシップ事業の第三弾ですけれども、今年度はまだ予定は組んでいないようでございます。</p> <p>それから3番、肥満予防講習会は、一般市民を対象として11月に実施する予定でございます。4番、食生活改善普及事業の「良い食生活をすすめるための料理講習会」として、森永さんにご協力をいただきまして、7月に1回実施する予定でございます。今年は7月14日に決定でございます。</p> <p>それから①-G-1として、1番の親子の食育教室は、児童と親となっておりますが、宮城地区で1月に1回実施する予定でございます。2番が親子の食育教室として、川前児童館の依頼で、食改と一緒に料理講習会をする予定でございます。6月に1回予定しておるということでございます。11ページをお開きください。</p> <p>具体的な取り組みの①-G-2として、生涯骨太クッキング教室は、地域住民と一緒に料理講習会といろいろなお話をしたいと思います。1月に予定しております。それから②-A-3として、行政と一体となつての「健康のつどい」の普及啓発活動ですが、今年は日程が、一応11月には</p>

	<p>しておりますけれどもまだ未定でございます。地域の団体の共催事業でありまして、郷土料理や地域の食材を紹介するブースを設置して、皆さんに試食をしていただいております。今年度は味噌汁の塩分測定も実施してまいりたいと思います。以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございます。それでは健康で安全な消費生活についての取り組みから、みやぎ・環境とくらし・ネットワークの菅原委員、よろしく願いいたします。</p>
菅原委員	<p>みやぎ・環境とくらし・ネットワークの菅原と申します。よろしく願いいたします。16 ページをお開きください。私どもの団体が取り組んでおります、まず事業名で言いますと、仙臺農塾というものになります。こちらは5年目となるVOL5 というものを実施しておりまして、今月そちらが終了した状態です。</p> <p>平成 29 年度は、今年の 9 月から翌年の 6 月ぐらいまでの期間で、ほぼ毎月仙台市内の飲食店を会場にして、生産者、加工業者、野菜ソムリエなどをゲストに招いて、食事をしながら直接お話を伺うという講座になっております。こちらは継続して掲載させていただいております。</p> <p>次に 17 ページに移っていただいて、推進の柱③-B の事業名で言うと、オーガニック・ウィーク・センダイ 2017 というものになります。こちらは昨年から実施している企画ですが、ちょっと実施内容を読んだだけではわかりにくいかと思います。</p> <p>オーガニックウィークという期間を設けまして、そちらの期間中にいろいろな団体や、生産者、飲食店に呼びかけて、共通のロゴを使っていただいて、オーガニックというものを普及、盛り上げていくというキャンペーンになっております。</p> <p>今年は実施時期が 2017 年の 11 月 3 日から 11 月 12 日に決定しております。11 月 11 日に消費者サポートセンターのシアターを使って、ちょっと大々的に交流会というようなものを実施したいと、今企画検討中があります。</p> <p>次に推進の柱④ - A-1 の 2 番です。ネオニコチノイド系農薬の危険性を広める紙芝居の上演ということで、農薬問題はいろいろと出ておりますけれども、その中でもネオニコチノイド系農薬を取り上げて、ちょっと言葉が難しいのと、中味も結構難しいんですけれども、それを紙芝居の形で子どもたちにも知ってもらいたいなど。私どももイベントなどやっていたんですけれども、認知度が低いということがありましたので、もう少し広めるような形で、今年は取り組みたいと考えております。以上です。</p>

高澤会長	<p>ネオニコチノイド農薬と言うとミツバチがかなり激減しているということと非常に関わっているということがちょっと前から問題になっていたかなと思いますし、日本でも使われているんですよね。ありがとうございました。それではさまざまな年代の方を対象に、流通と消費の立場からの取り組みとして、宮城県生活協同組合連合会の渡辺委員、よろしく願いいたします。</p>
渡辺委員	<p>宮城県生協連の渡辺でございます。私どもの構成団体の中の何例か食育活動を記載させていただいておりますが、その中でみやぎ生協の活動についてご紹介したいと思います。13 ページをお開きください。</p> <p>具体的な取り組みとしましては、① - G-2 の体験を通して健康的な食のあり方を学ぶ機会をつくるということで、小学生を対象に5 A DAY 食育体験ツアーをみやぎ生協のお店の集会室をお借りしまして、小学校と連携して、授業の一環として、食育の体験を通して、食の安全性、それから食に対する子どもたちの意欲、意志と、主体的に取り組める力を養うということを目的に開催しております。</p> <p>こちら記載のところではちょっと数字が若干違うんですけども、平成 28 年度は県内 23 小学校ご協力いただいております、全体で 61 回ほど開催しております。2,000 人近い児童の皆さんに参加していただいて、食育の大切さを活動として体験していただいたということでございます。以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございます。続きまして食に関する専門的なお立場からの取り組みについて、仙台歯科医師会の柴崎委員、よろしく願います。</p>
柴崎委員	<p>仙台歯科医師会の柴崎です。仙台歯科医師会は会員全体、及び担当役員において、食に関する活動を行っております。市民全般に向けた活動としては、市民向けに配布させていただいております冊子「SMILE」が、先月 60 号を迎えました。</p> <p>この中に各テーマに分けて、専門的な、市民にわかりやすい内容でお口の情報、そして食事に関するものも含まれ、啓発活動を行っております。また毎年、歯と口の健康週間市民のつどいにおいては、今年は 6 月 10 日に行いましたが、宮城県栄養士会さんとご一緒して、食の大切さについて啓発活動を行っております。</p> <p>また学校、乳幼児に対しては各学校において、学校校医などから児童・保護者・職員に向けて講話、及び授業などを行っております。また P T A フェスティバルへ参加し、講話を行ったり、乳幼児に関しては 3 歳児カリエスフリー85 プロジェクトを行っているところです。</p> <p>特に記載はありませんけども、このたび歯科医師会が妊婦健診を担当</p>

	<p>しましたので、歯科医師会としてはマイナス1歳からのデンタルケアとして、お母さんのお腹の中にいるときから、まずはお母さんの体の健康づくりを行っていただくという取り組みを行っているところです。</p> <p>各区においては幼稚園児などを対象に、歯と口の健康づくり教室として、行政と連携して、教室を行っております。また一般市民向けの各区区民まつりなどにおいても、ブースを置かせていただいて、そういった市民に対する啓発活動を行っているところです。以上です。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございます。健康というのはお口からというのもよく聞いていることで、歯周病など実は万病の元はお口からだということを知ったことがあるのですが、歯の衛生に関しては、しっかりしていかなければいけないのかなというところがございます。それでは食に関わる大学の取り組みについて、宮城大学食産業学部の白川委員、よろしくお願ひします。</p>
白川委員	<p>宮城大学の白川でございます。資料1の21ページをご覧ください。取り組みとしましては例年どおりでございますが、大学ですので、大学の授業ゼミ等を通して、より一層、食に興味を持ってもらい、学生が自分自身の食生活を見直して改善していくことを促しています。若い世代を中心とした食育の推進というのが、第3次食育推進基本計画の重点課題の1つにもなっておりますので、近い将来、親になる大学生に対して、次世代へ伝え、つなげることを意識してもらえるように、指導を行っております。</p> <p>次に例年行っております教員免許更新講習と、今年だけになりますが、栄養教諭の専門講習のほうで、食育の講座を開設しております。教育現場で役に立つ、食育の情報や実践例を紹介させていただいております。</p> <p>もう1つ本日ちょっと印刷の都合で記載できていない取り組みがございまして、①-A-5ということで、本学の森本素子教授がご指導されているんですけども、@GREEN（アットグリーン）という学生サークルが以前仮設住宅に住んでいらっしゃった方々とともに、大学の農場で採れた野菜や寄付された食材等を用いまして、スープ・パンをつくって、朝ごはんを大学の学生に対して提供するという取り組みを行っております。</p> <p>この取り組みは学生の朝食欠食の改善とともに、学生の地域における世代間交流や、食に関する自主的な活動へのモチベーションを高める取り組みとして、推奨できるものとなっております。以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。では最後に私から仙台白百合女子大学の取り組みにつきまして、ご報告をさせていただきます。資料はその前の20</p>

	<p>ページということになります。</p> <p>毎年、一人暮らしのための食育講座というのを継続的に行ってきたわけですが、食育講座といっても、その内容は非常時の食ということを中心にさせていただいております。6年前に東日本大震災が起こりまして、その当時に非常に役立ったというものはやっぱり乾物だよということ、乾物に今回は焦点を当てさせていただきました。</p> <p>乾物は、若い人たちにとっては使いづらいというところがありまして、実は先日24日に開催したものでございます。学生たちに、乾物ってこうやって使えば、簡単に手軽にできるんだよということ、講座の中でお話をさせていただきましたし、それから非常時のための備蓄ということも、お話をさせていただいたところでございます。</p> <p>それから宮城県民大学講座も毎年させていただいていますが、今年は「骨はからだの母親一骨を元気にするために」ということで、骨のことについての講座を開催し、その中でも骨に対しての栄養ですとか、運動に関わることを2回に分けて行います。そのうちの1回はカルシウムの多い材料を使って実習しましょうということで、私が一応担当にならせていただいております。現在40名ほどの申し込みがございます。</p> <p>それから推進の柱の③地産地消をすすめようということで、これも継続的に行っていることではありますけれども、今年も4月にお花見弁当ということで、学生たちが献立を立案しまして、それを企業の方につくっていただいて、市場販売ということを手がけてまいりました。来年も4月にまたお花見弁当という形で進めようと考えております。</p> <p>続きまして仙台市の事業計画についてご紹介をお願いいたします。まず子供未来局からお願いいたします。</p>
<p>福田委員</p>	<p>子供未来局の福田でございます。いつも皆さんに大変お世話になっております。ありがとうございます。資料のほうは23ページからになります。子供未来局からは大きく4つです。23ページはまず情報発信と啓発になります。保育所や児童、幼稚園児の保護者あるいは地域で子育てをされているご家庭の保護者に対して、健康的な食習慣についての情報発信をしているということで、各種講座を開いたり、あと保育所ですと給食だよりなどを通して、健康的な食習慣についての情報発信などを行っています。</p> <p>また保育所では親子調理活動ということで、保育参観ですとか懇談会の日などを利用して、親子で調理活動をちょっと楽しんでもらって、家庭でも生かしてもらおうというような取り組みを行うということにしております。</p>

	<p>次は 24 ページです。24 ページは専門性を生かした指導、あるいは支援ということで、真ん中から下のあたりがそれに該当しますが、妊産婦や乳幼児の食事について、例えば母子健康手帳の交付の際ですとか、母親教室、あるいは育児教室、離乳食教室、あと健診の機会といった、そういった機会を捉えて、栄養士や保健師がそれぞれの啓発、あるいは個別の相談などを行うということでございます。</p> <p>次に 25 ページです。こちらは各保育所での食育活動になります。真ん中のちょっと上のあたりですけれども、各保育所では食育の計画を毎年つくり、さらに具体的にどんな活動を行っていくかという食育活動計画をつくって、毎年取り組んでおります。栄養士、あるいは保育士が食育の内容を共有し、計画をつくり、それを実践して、さらに評価するというように、毎年サイクルを回して行って拡充をしていくというような取り組みになります。</p> <p>あと一番下のところでですけれども、お父さん向けの料理教室ですが、そういったものも広瀬通りのガスサロンを会場に、年 2 回開催を予定しております。</p> <p>最後は 26 ページになります。こちらは食文化ですとか、地産地消ですとか、そういった取り組みになります。これも保育所での活動になりますけれども、給食の献立に行事食ですとか郷土料理などを出すといったことや、地産地消、地元生産者の方から食材を提供いただいて、それを活用してということで、子どもたちの食への意欲ですとか感謝の気持ちだとか、そういったものも育んでいきたいということでやっております。子供未来局は以上です。</p>
高澤会長	ありがとうございます。それでは経済局、よろしく願いいたします。
石川委員（代理で横山農林部長）	<p>経済局農林部の横山でございます。お手元資料の 28 ページから 29 ページにかけて、経済局での取り組みを掲載いたしております。経済局では農産物の生産振興ですとか、地産地消の推進に努めております。また生鮮食料品の流通拠点であります仙台市中央卸売市場を所管しております。農産物の消費拡大、それから生産・流通・消費の各立場の相互理解を深めるための施策を実施しているところでございます。</p> <p>それではまず 28 ページからご説明します。③-A-1 保育所給食・学校給食に地場産食材を活用しますというところがございますけれども、学校給食連携事業としまして、教育局と一緒にやっているものでございますが、J A 仙台さんにご協力をいただきまして、仙台産農産物を給食に取り入れ、児童生徒に旬の地場食材を味わっていただくことで、仙台産農産物の認知度の向上と消費拡大を図っているところでございます。</p>

	<p>次の③-B-1 地場産の食材や地産地消についての情報発信でございますが、せんだい産農産物表示マーク、愛称「ここでちゃん」と称しておりますが、これを通じました地産地消のPR、それから生産現場の見学や栽培体験などを行います地産地消推進サポーター事業、それから毎日NHKでお昼の直前にやっております『ひるはび』という番組ですが、毎週金曜日 11時半ごろから 10分程度の時間をいただきまして、中央卸売市場からの旬の食材の紹介、それから食品流通の仕組みと市場の役割について理解を深めるための、市民を対象にした市場見学会、こういったことを昨年度に引き続いて行うところでございます。</p> <p>次の③-B-2でございますけれども、旬の香り市と称したイベントの開催ですとか、地場産の食材、それから地産地消に関しまして、市民の方に広くご理解いただける機会づくりに努めているところでです。</p> <p>次に 29 ページにまいりまして、③-B-3 市民や子どもたちが生産者とふれ合い、農業を体験する機会をつくります。これにつきましては、レクリエーション農園ですとか、学童農園を設けることで、児童生徒の農業体験を促しまして、生産者の皆さんとふれ合う機会を提供しております。</p> <p>それから③-B-4につきましては生産者の方ですとか、市場の流通関係者の皆さんが行っております情報発信をお手伝いいたしまして、一緒にPRに努めているところでございます。経済局では今後ともさまざまな事業に工夫を凝らしまして、地産地消ですとか、食育の推進に取り組んでまいりたいと考えているところでございます。以上でございます。</p>
高澤会長	ありがとうございます。続きまして教育局お願いいたします。
大越委員（代理で木村総務企画部長）	<p>教育長代理の木村でございます。資料は 30 ページをお開きください。教育局の事業といたしましては、児童生徒とその保護者を対象としたものを中心に、10 数項目となっております。このうち本日は 2 つご紹介させていただきたいと存じます。</p> <p>まず 30 ページの中ごろですが、①-B-3 の 1 項目目、「仙台市健やかな体の育成プラン」の具体的施策の取り組みでございます。これは平成 29 年度から 5 年間で計画期間といたします仙台市健やかな体の育成プラン 2017、昨年度策定いたしましたけれども、これに基づきまして、児童生徒が望ましい食習慣・運動習慣・生活習慣、この 3 つの習慣を身につけ、毎日の生活を明るくいいきいと、健康的に過ごすことができるということを目指した取り組みでございます。</p> <p>プランに基づく施策といたしまして、健康教育推進校に指定いたしました小中学校 5 校で 3 年間の指定期間の中で、効果的な指導方法の工夫</p>

	<p>や改善、家庭や地域との連携の仕方等につきまして、それぞれの学校の教育目標や、児童生徒の実態等に沿った指導に取り組んでいるところでございます。</p> <p>この取り組みの成果につきましては、実践例や課題等をまとめた事例集の配布、研修会、発表会の開催などを行いまして、健康教育推進校だけでなく、市内全域への普及活用を図っているところでございます。</p> <p>続きまして31ページの中ほどちょっと上ですが、①-B-9の親子食育講座についてでございます。PTAや社会学級の皆様などのご協力をいただき実施しておりますこの講座は、例年、地産地消や朝食づくりをテーマとした調理実習や、栄養士の講話など、各団体においてさまざまな内容を取り上げていただき、参加者からは「食の大切さについて考えるよい機会になった」という声が多く寄せられております。今年度は46校での実施予定でございます。</p> <p>以下32ページまで事業を掲載しておりますけれども、児童生徒の食育を学校教育の場面だけで実施して、効果を上げるということには限界があると感じておりまして、今ご紹介いたしました親子食育講座のほかにも、調理講習会といったイベントですとか、先ほど小学校長会の熊谷委員からもご紹介ありました給食だよりなど、そういった紙面なども活用しながら保護者の皆様への啓発にも取り組んで、子どもたちの食育を進めてまいりたいと考えているところでございます。以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございます。続きまして健康福祉局、よろしく願いいたします。</p>
佐々木委員	<p>健康福祉局の佐々木でございます。私のほうからは3つの取り組みについてご紹介いたします。はじめに39ページをご覧ください。若い世代を対象とした区役所の取り組みでございます。1つ目は左の番号の1、若い世代の健康づくり支援事業でございます。市内でも特に専門学校が集中している青葉区保健福祉センターの取り組みでございますが、専門学校と連携し、健康や食生活についての情報をニュースレターや電子媒体で配布し、各学校での活用を働きかけております。</p> <p>また資料にはございませんけれども、学生の意識を高める取り組みとして、今年9月から10月にかけて、健康に関する標語と四コマ漫画を募集する健康づくりコンテストも実施していきたいと思っております。</p> <p>2つ目は同じページの一番下の5番でございます。こちらのほうは泉区保健福祉センターの大学生を対象とした食育事業でございます。平成27年度から継続しておりますが、今年度も大学生協のイベントや、学園祭で食育ブースを設置し、区内の管理栄養士養成大学の学生とともに、</p>

	<p>朝食レシピの配布、パネルの展示、調理のデモンストレーションなど、少しでも食に興味を持っていただけるような企画を現在検討しているところでございます。</p> <p>3つ目は46ページをご覧ください。ページの中ほど7番でございます。健康福祉局の生活衛生課の取り組みをご紹介します。せんだい食の安全サポーター制度でございますが、はじめに上の段のせんだい食の安全サポーターでございますが、市民の方をサポーターとして委嘱し、年4回ほどの会議に出席していただき、食中毒についての疑問など、意見交換を行いながら会を進めております。</p> <p>また下の段のせんだい食の安全情報アドバイザーですが、こちらはサポーターを終了した方に参加していただきまして、消費者と食品衛生事業者、及び行政の相互理解を図るための勉強会、意見交換会などで活動していただくほか、サポーター会議でも意見交換の中心的な役割を担っていただいております。</p> <p>今年度は6月3日に実施いたしました食肉祭りにて、来場した市民に手洗いの大切さについて啓発していただきました。このように今年度も市民協働により、食品の安全に関するリスクコミュニケーションを推進する計画としております。以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。皆様方からさまざまな企画等がご報告されました。対象者の方々が少しでも興味関心を持っていただき、意識づく力と言いましょか、そういった力がついていければいいかなと思っております。それではただいまお話しいただきました事業計画につきまして、委員の皆様からご質問などございましたらお願いしたいと思います。</p> <p>それではちょっと私のほうからお伺いしたいことがございますけれども、よく離乳食をつくるのがよくわからないという若い世代のお母さん方がふえているということで、離乳食は瓶詰とかあるいはインスタントもので済ませてしまっているというのが現状だということを知るところですが、幼稚園の小島委員、何かそういった離乳食関係の問題とかございますか。</p>
小島委員	<p>私の園、みどりの森は2歳からしか子どもがいないので、離乳食の問題というのは全然なかったんですけども。今回、泉区にもう1軒出しまして、そちらはゼロ歳からいるものですから、まさに今離乳食を食べ始めた5カ月のお子さんもいるというようなことでやっております。</p> <p>昨年度もその前の年も離乳食教室を、うちの栄養士だったり、ほかの栄養士さん、辞められた先生に来ていただいて行ってございまして、毎回</p>

	<p>ものすごくたくさん申し込みがあるんです。そして、皆さん喜んで帰るところまで私もつかんでいるんですけども、特にその離乳食の瓶詰ばかり食べさせているというような感じは逆になくて、街の中のお母さんたちはむしろそんなに一生懸命やらなくてもいいんじゃないっていうくらいの印象です。</p> <p>極端な感じで、全くそういったことに興味がない方も本当に中に一人くらいはいらっしゃいますが、そのほかのお母さん方は、どちらかと言うと物すごく神経質に、本当にもう一個一個食べさせているみたいな感じで、むしろ私が子どもを育てたころには、その辺にあるものを上手に活用しながら食べさせるみたいにしていたのに、ああ、こんなに一からつくって、一生懸命やるんだなという印象のほうが強いです。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございます。さまざまところで離乳食教室を開催しますというお話をいただいたのですけれども、子供未来局あるいは健康福祉局の方どなたでも構いませんが、その辺のところお話いただけるとありがたいです。</p>
泉区家庭健康課長	<p>泉区家庭健康課庄子でございます。よろしくお願ひいたします。区役所でも離乳食教室、泉区では7カ月から8カ月の子どもさんに、少し始まってから、進み具合がどうかなというタイミングで開催させていただいております。35組くらい毎回募集するんですが、9時から募集なのにもう8時半から申込みの電話が来るという形で、やはり先ほど小島委員さんがおっしゃったように、大好評の状態でございます。</p> <p>本当に両極端で、何を食べさせたらいいかということで、料理の経験がないお母さまが、どうやってつくったらいいかと一から学ぶ機会、あとは自分がつくっているものがこれでいいのか確認をしたいというのがあります。</p> <p>そういう中でやはり一つ一つ、昔ですと地域の方や家族に確認してもらって、それが自信、これでいいんじゃないのって言ってもらえたことが、今は誰にも確認できないというあたりが一番ネックになっているのかなと思います。</p> <p>あとは本当に先ほど申し上げたように、両極端。何も作り方がわからない、どうしたらいいのって丸投げ状態で教えてくださいという方はまだいいほうかなと思います。自分がわからないことも気にしないという方も結構いらっしゃって。そういう方々が1歳半健診に来たときに、噛めないとか、小食とか、好き嫌い、野菜が嫌いだというあたりに現れてくるのかなと思います。以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。昔は二世三代家族が普通で、おばあち</p>

	<p>さんから教えられていたとか、おばあちゃんに相談して、それでいいのだという確認ができたんですね。今は核家族が多いため、離乳食教室があれば、そういったところで参考にさせていただく面、確認できる機会があるのかなというところで、ぜひ推進をお願いしたいと思っています。</p> <p>というのはやっぱり小さいころからの食経験は非常に重要でして、瓶詰とかインスタントものと、化学的な味で教えられてしまって、それで大人になっていくよりは、本当の味を教えていただけるといいなという思いがしているところでございます。</p> <p>そのほかご質問ご意見等ございませんでしょうか。それでは市民公募の亀山委員と齋藤委員にもご出席いただいておりますので、齋藤委員のほうからご意見等ございましたらちょうだいしたいと思います。</p>
齋藤委員	<p>齋藤でございます。皆様方の本当に素晴らしいご活動の様子と、それから計画ですね、本当にきめ細かく各年代や地域にマッチしたような形で活動されているのが、本当にありがたいなと思って、見せていただいております。</p> <p>これを受け手の側の市民がいかに関心を持って、そして生活の中に定着させていくかということが、これからは課題になっていくのかなと感じさせていただいております。食育ということに関しての意識が低いというようなデータも、今回見せてはいただいたんですけども。</p> <p>私もいろいろ講座に参加させていただくと、食への関心は皆さんとても高いなという印象は受けてはおりますので、食への関心が一歩進んで、食育というその文言の周知徹底も必要なのかなと思ったりもしておりますし、食への関心がある市民が多いということは、まだまだ伸びしろはあるように生活の中で実感させていただいておりますので、先ほど会長がおっしゃったように、ぜひこの活動を続けていただければと実感いたしております。以上です。</p>
高澤会長	ありがとうございます。亀山委員、よろしく申し上げます。
亀山委員	<p>亀山です。よろしく申し上げます。私も今回また資料をじっくり読ませていただきまして、各年代に対してのケアというのがこんなにやられているのだなというのは、本当に会議に参加するたびに感じております。</p> <p>ただやはり大人になっても貧困だけではなくて、収入が多くても食に対してあまり興味がないという人たちもいることは確かで、そうなりとやっぱり価値観の問題なのかなというふうに思います。その価値観を覆すにはすごいインパクトが必要だったりするのかなと。</p>

	<p>もしくは、食というものに対して興味を持つような価値観を持つためには、今皆さんがやっているような、小さいころから、マイナスゼロ歳からの食育が、無意識の中で蓄積されて、未来に対して変わっていくのかなというのは実感しました。</p> <p>そしてその各年代への教育というのは、ミスマッチなくマッチングされているっていうのがすごく大切なのかなと感じました。特に全体見てください興味深かったのがMELONさんがやっている17ページのネオニコチノイド系農薬の危険性についての教育で、小学校の3～4年生にしているというのがすごく興味深く、1～2年生だとちょっと頭に入って来ない部分もあるし、高学年ですと思春期とか反抗期が入ってきてという部分で、ここにターゲットを当てたのが、個人的にですが、いいんじゃないかなと思ひまして、そういう教育のマッチングというのもすごく大切なんだなと思ひました。以上です。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。ほかに皆様から何かございませんでしょうか。それでは議事の2番目に移りたいと思ひます。仙台市食育推進計画〔第2期〕後期計画策定についてでございます。まず資料2、後期計画策定の趣旨と位置づけから、資料5-2推進にあたっての指標の達成状況まで、事務局からご説明をお願いいたします。</p>
健康政策課長	<p>健康政策課の小林です。仙台市食育推進計画〔第2期〕後期計画の策定について説明をいたします。資料2の、1後期計画策定の趣旨と位置づけでございます。本市では平成19年3月に仙台市食育推進計画を、平成23年3月には仙台市食育推進計画第2期を策定しております。</p> <p>現計画につきましては今日第2期の概要版という、レモン色の資料をおつけいたしましたので、少し再確認をさせていただきたいと思ひます。こちらの概要版をご覧ください。見開きになっておりますけれども、こちらの一番左側を開いていただきます。</p> <p>最初に計画の基本目標でございますが、「食べる力をみんなでアップ！～みんなでおいしく楽しく食べよう～」としております。食べる力とは、この計画では、食べ物を選ぶ力、食事を準備する力、組み合わせを考えて食べる力、素材本来の味がわかる力などを指しまして、食育活動を通じてお互いに食べる力を育て、高め合うことを目標としております。</p> <p>推進の柱をご覧ください。目標達成のために4つの柱立てをしており、柱ごとに取り組みの方向性を示し、具体的な取り組み内容を掲げております。取り組みにつきましては先ほど皆様からご紹介いただきましたように、この推進会議におきまして、計画や実績などを紹介していただき、皆様と課題を共有しながら進めているところでございます。</p>

資料2のほうにまたお戻りください。後期計画の位置づけでございます。この真ん中の図にありますとおり、仙台市総合計画を上位計画としました食育を市民運動として推進するための行動計画として、いきいき市民健康プランをはじめとする、本市の各種計画との連携を図りながら推進してまいります。

下の表をご覧ください。平成29年度はこの第2期計画の中間年にあたりまして、今回平成34年度末までの計画、後期計画を策定することとなります。裏面をご覧ください。後期計画の策定方針としましては、これまでの取り組み実績と成果を評価した上で、国の計画も踏まえて、今後重点的に取り組むべき方向性を盛り込んでまいります。

3の評価にあたっての考え方ですが、評価ステップ1として、推進の柱ごとに市、及び関係機関の取り組み実績を取りまとめて評価をいたします。評価ステップ2としまして、市民意識調査や統計資料などを基に、指標の達成状況を把握し、評価をいたします。

次に資料3をご覧ください。こちらは後期計画策定にかかるスケジュール案でございます。本日、第1回の会議となりますけれども、ここで中間評価や後期計画の骨子案についてご意見をいただくほか、7月には今日の意見だけではなくて、委員の皆様にご意見シートを送付させていただく予定としております。資料をもう一度お目通しいただき、追加の意見や具体的な取り組みについてご意見をいただく予定としております。

10月中下旬ころに第2回食育推進会議を予定しております。ここではこの後期計画の中間案について検討していただき、その後また意見シート送付により、意見を追加で照会させていただきます。11月下旬から12月中旬にかけて、パブリックコメントを実施しまして、広く市民の皆様にご意見を伺いながら、平成30年2月上旬には第3回の食育推進会議を開催し、パブコメの対応ですとか、最終案について検討を踏まえて、3月下旬に後期計画の策定という予定をしているところでございます。

次に資料4をご覧ください。こちらは推進の柱に沿った取り組み実績でございます。推進の柱ごとに表にまとめさせていただいております。推進の柱①食を通じた健康づくりを实践しよう、についてでございます。こちらの表の左側にありますように、取り組みの方向性の1つに食育に関して情報発信をし、関心を高めると掲げておりまして、若い世代や働き盛り世代に対して、ホームページやさまざまなイベントの機会を通じた情報発信、あるいは保育所や幼稚園、小中学校、児童館、大学や専門学校と連携した講座や研修会などに取り組んでまいりました。働き盛り世代に対しましては、企業や産業保健等の団体と連携した情報提供や健

康相談、健康講座などに取り組みました。

2ページをご覧ください。体験の場をつくるという取り組みの方向性に関してでございます。子どもたちの給食を通じた食事のマナーや衛生習慣の獲得、農作物の栽培、収穫体験、親子での調理体験講座の開催などに取り組んでまいりました。下のほうにいくつかの事例を、写真をつけた形で紹介をしておりますので、後ほどご覧ください。

3ページをご覧ください。推進の柱②地域の食文化を伝えあおう、についてでございます。地域のつながりから、お互いに食文化を伝えあう活動ということで、保育所・幼稚園・学校などでは、給食に郷土料理や行事食を取り入れたり、給食だよりを通じた保護者への啓発を行ったり、市民センターなどと連携して、地域の食材や郷土料理に関する講座などの開催に取り組みました。4ページをご覧ください。推進の柱③地産地消をすすめよう、でございます。子どもたちの身近な場での実践ということで、地場産の食材を給食に使ったり、仙台ならではの生産者などの交流や、体験の場をつくるという視点で、生産現場の体験会や、生産者と消費者の交流の機会をつくるなどの取り組みを進めました。

5ページをご覧ください。推進の柱④食品を選ぶ確かな目を持つ、でございます。食品の安全性に関する正しい情報の発信ですが、ホームページのほか、チラシの活用や講演会を通じた情報発信に取り組みました。また食品関係業者に向けた食の安全に関するタイムリーな情報発信や、講習会の開催等にも取り組んできたところでございます。

次に資料5-1をご覧ください。こちらは評価ステップ2になりますが、指標の達成状況についてまとめてございます。指標につきましては平成21年をベースラインとし、10%以上の変動で改善、悪化傾向というふうに示してございます。最初にダイヤの四角のところですが、食育に関心がある人の割合についてです。

関心がある人の割合は23.9%から21.0%と減少をしています。計画策定時には関心があると人に加えまして、どちらかと言えば関心があるという方々が45.5%だったということがございましたので、この層の方々、どちらかと言えば関心があるという方々が、関心があるというほうにスライドしていただくことを目指して目標値を設定したのですが、昨年度の調査ではあまり大きな変化はなかった、という状況でございました。

次に朝食を毎日とる人の割合でございしますが、下の表のほうにございますが、改善が見られましたのは30歳代男性でございます。54.3%から62.0%ということで、国の現況値よりも上回っております。悪化してし

まったのは20歳代女性で、64.9%から55.1%となっております。

次に2ページをご覧ください。適正体重にある人の割合です。表のほうをご覧ください。20歳代女性のやせは21.9%から16.2%と減少しております。次に栄養成分表示を参考にしている人の割合でございますが、食品購入時に参考とするとした人は変わらない状況でございます。外食時に参考とする人は、22.5%から19.6%と悪化傾向になっております。

次に食育体験の場となる学童農園・市民農園ですが、114農園から117農園というふうに増加をしております。尚、表の中央にある外食栄養成分表示の実施店は、平成27年度から制度の枠組みが変わったということで、評価という形にはしてございませんので、ご了承ください。

次に5ページをご覧ください。表以外の項目で、今回の調査結果から見える課題について説明いたします。まず主食・主菜・副菜を揃えて、一日2回以上食べる頻度では、ほぼ毎日と答えている方は45.3%で、半数に満たない状況でした。特に若い年代で低い傾向となっております。

次に郷土料理や伝統料理の継承でございますが、受け継いでいると答えている方は全体で50.8%で、若い年代ほど低い傾向となっております。次に6ページをご覧ください。食品の安全性に聞いておりますけれども「いつも判断している」と、「判断している」という2つを合わせますと60.0%になっており、若い年代ほど低い傾向でした。食品表示を見るかという問いには70.5%が「はい」と答えており、食品表示で重視する項目は消費期限や賞味期限が75.0%と一番多くなっておりまして、栄養成分表示は28.3%でした。

最後に資料の5-2をご覧ください。上の表は第2期計画にあたっての指標を一覧にしているものでございます。ただいま説明いたしました平成21年のベースライン、昨年調査と比較しての評価、市の目標値、国の現状値を一覧にしております。全体としましては、約半数はベースラインとあまり変わっていない状況でございます。悪化傾向のもの、あと改善傾向のもの、それぞれ同じくらいの数があるというような状況になっております。

下の表は昨年策定されました国の第3次食育推進基本計画の指標のうち、仙台市の計画の指標にはないものにつきまして、現況値を国と合わせて記載をしております。国の調査方法と市の調査方法ではちょっと違いもございまして、比較するときには考慮する必要がございますが、全体的に国よりも低いというような状況になっております。以上でございます。

高澤会長	<p>ありがとうございます。ただいま事務局より、今までの取り組みの評価と課題の部分を中心にご説明いただきましたが、ここまでについて委員の皆様からご質問やご意見はございませんでしょうか。朝食を毎日食べる人の割合の中で、30代の男性がぐっとふえたという結果でございましたけれども。そのきっかけと言ったらいいのでしょうか。ふえたのはどのようなことが推測されますでしょうか。</p>
健康政策課長	<p>この30代の男性というところで、実はいきいき市民健康プランの生活習慣病予防といった重点項目分野がありますが、そちらでも重点的に取り組む、働き盛り世代というふうに位置づけております。そのための取り組みとしましては、やはり子育て世代のお父さん方をターゲットにしたりというようなことがございまして、保育所さんですとか、学校とか、区の保健福祉センターでも市民センターと連携をしたりして、お父さんたちに食に関心を持ってもらうというような取り組みなどもございましたので、その影響があるのかなというような感じは持っております。</p>
高澤会長	<p>はい、ありがとうございます。それから資料5-1の5ページの、その他の調査結果から見える課題ということで、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をほぼ毎日取っている割合というところですが、年代が高くなるにつれて、揃った食事をしているのかなというところが見えてまいりました。</p> <p>それからその下の地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理、作法等を受け継いでいる人は、若い世代ほど低い傾向ということではあったのですが、ただ、無回答している数が年代を追うごとに多くなっているなというところが見受けられましたので、やっぱり昔ながらの方っていうのは昔のことをよく知っているので、それをうまく継承できなくて無回答だったのか、あるいは昔の人でありながらも伝統的な料理っていうのはちょっとわからないわということで、無回答だったのか、その辺が気になりました。</p> <p>そのほか皆様から何かご意見ございませんでしょうか。今回の結果、それから課題を踏まえまして、それぞれの立場でさらなる食育推進活動をしていただければと思っております。</p>
渡辺委員	<p>ひとつちょっとわからないので教えていただきたいのですが。目標の達成状況のところ、市目標値があるんですけども。私もちょっと入ったばかりなのでわからないのですが、どのような指標で算出して、このような数字の目標値になったのか、教えていただきたいです。</p>
健康政策課長	<p>こちらの指標ですが、計画を策定するにあたっては国の食育推進計画も参考にさせていただいているところがございます。それでここにあり</p>

	<p>ます市のベースライン、平成 21 年度の調査結果を基に、国の目標値なども意識しながら分析をして、5 年後 10 年後にはもう少しこの辺まで目指せるのではないかというような視点で、設定をしたものでございます。</p> <p>先ほどその一部を紹介させていただきましたけれども、食育に関心がある人の割合ということで、例えば当初計画ができたばかりということがございましたので、積極的に関心があるというよりは、どちらかと言えばあるかなという意識の方も多かったので、ぜひこの食育推進計画を皆様と推進する中で、積極的に食育に関心を持ってもらおうというの期待値も含めて、目標値を設置したのもでございます。</p> <p>あとは経年変化で見る指標につきましては、毎年の変化の伸び率なども勘案しまして、5 年後ぐらいなら、この辺まで達成できるのではないかというような視点で計算したのもでございます。</p>
高澤会長	<p>渡辺委員、よろしいでしょうか。ありがとうございます。では続きまして資料 6、後期計画の骨子案についてご説明をお願いいたします。</p>
健康政策課長	<p>それでは第 2 期後期計画の骨子案について説明をいたします。資料 6 の A 3 横の資料をご覧いただきたいと思います。基本目標は食べる力をみんなでアップ！～みんなでおいしくたのしく食べよう～ということで、第 2 期計画と同じ基本目標を掲げております。</p> <p>ただいま指標の評価や取り組みについて、説明をさせていただきましたが、これまでの取り組みの方向性なども踏まえまして、後期計画におきましても、食育活動を通してお互いに食べる力を高め合い、共食の楽しさや食文化、マナーの伝承などに引き続き取り組む必要があると考えておりまして、基本目標は後期計画も継続をするというふうにしたいと考えております。</p> <p>推進の柱も同じように継続としたいと考えておりますが、昨年策定されました国の第 3 次食育推進基本計画に新たに盛り込まれました重点課題への対応、また平成 32 年度に完全実施されます、新しい食品表示制度の周知と啓発活用のために、推進の柱の内容を一部拡充したいと考えております。</p> <p>具体的には(1)推進の柱③に、食の循環や環境を意識した取り組み内容を拡充し、文言を変更すること。(2)推進の柱④に栄養成分表示などの知識の周知に関する項目を盛り込みたいというふうに考えております。こちらの図のほうについても少し説明をしたいと思います。一番左側が現計画の推進の柱を記載しております。</p> <p>この柱に関して課題と方向性ということで、推進の柱①では、食への関心が低いことや、組み合わせや量を考えて食べるとか、生活習慣病予</p>

防、健康づくりのための食習慣の理解実践がまだまだ必要だというふうに感じております。

推進の柱②では、地域や家庭の食文化や和食が十分に受け継がれていないということや、特に若い世代、次世代への継承が必要であるということが課題であり、新しい方向性では特に若い世代も継承して、実践をしていくということが国の計画でも強調されているところでございます。

推進の柱③に関する課題と方向性ということでは、さらなる地産地消の取り組みの推進ですとか、あとは新しい課題として今回出てきております、食の循環や環境を意識した食育の推進を、新たに施策に加える必要があると考えております。

推進の柱④については、食品の安全性についての正しい知識をさらに普及していくということや、新しい食品表示制度を活用するために、知識の普及をして、食を選ぶ力をつけていくということを加えていきたいというふうに考えているところです。

後期計画におきましては推進の柱③をご覧ください。こちらを地産地消や環境を意識した取り組みをすすめようというふうに、後期計画のほうでは文言を変更しまして、拡充として、食の循環を意識しつつ、食品ロス削減と環境に配慮した食の取り組みを進める、としたいと考えております。

推進の柱④は食品を選ぶ確かな目を持つということ、ここに拡充としまして、栄養成分表示などの知識を伝える取り組みを加えております。

一番右側の部分は、具体的な取り組みについて記載をしているところでございます。下線を引いているところが新たに追加や、文言を変更しているところでございます。

推進の柱①については食育について興味を持つだけではなくて、自ら積極的に食に関わるという、何か行動をするというような部分も含めて自己管理する力を高めていくこと。また生活習慣病を予防するための食生活を実践すること、あとはその食を通じた健康づくりを次の世代に伝えていくことということを含んでございます。こちらはそして特に若い世代や子育て世代に働きかける内容として、文言を入れているところでございます。

推進の柱②につきましては、和食のよさを見直し、次の世代に伝えましょうということ、この和食という言葉を入れたというのは、食文化のより具体的な表現として、この和食を守り伝える取り組みを追加をし

	<p>ております。郷土料理や伝統食なども、和食が基本となっているということも鑑みて、ここに盛り込んでおります。</p> <p>推進の柱③についてでございますが、新たに食の循環というところで、生産から消費まで食の循環を意識していくこと。あとは食品ロスを減らす取り組みを進めていくということ盛り込んでございます。</p> <p>推進の柱④についてでございますが、新たに盛り込んだところとしまして、食品の栄養成分表示を日々の健康づくりに活用するという視点を盛り込んでいるところでございます。私からは以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ただいま事務局より、後期計画の骨子案につきましてご説明をいただきましたが、委員の皆様からご質問やご意見はございませんでしょうか。</p>
健康政策課長	<p>尚、追加ですが、今日の資料のほうに国の第3次食育推進基本計画というものもおつけしているところでございますので、こちらも参考にいただければと思います。補足させていただきますが、2枚目をご覧くださいますと、国のほうで5つの重点課題と目標というのを掲げております。</p> <p>国では①ということで、最初に若い世代を中心とした食育の推進というふうに掲げてございますが、今回の後期計画は各推進の柱の中で、この若い世代に対して働きかけを強化していくということ、仙台市の場合には盛り込む形にしていきたいと考えてございます。</p> <p>そして②のほうは、多様な暮らしに対応した食育の推進ということで、子どもや高齢者を含むすべての国民が健全で充実した食生活をということ、国のほうでは2番目に掲げていますが、仙台市の計画ではみんなでお互いに食べる力を高め合ったり、共食の楽しさ、そういったものを引き続き取り組むという形で考えていきたいと思っております。</p> <p>また④のほうが先ほど申し上げました食の循環に関する項目ですが、国のほうでは新しくこのような形で盛り込んでいるところでございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございます。地域の食文化を伝えあおうということで、和食のよさを見直すということ。私たち日本人にとって和食は普通の食事だと思っていたら、逆にそうではなくなっているというのが現状でありまして、2013年に和食がユネスコに登録されましたというところではございますけれども、登録されたから永久に登録されるのかと言うと、そうではなくて、やはり何年かに一回はまた審査にあうと。</p> <p>そうなったときに、あら、日本人は和食ではなくなっているの？インスタントばかり食べているのかというような状況になれば、登録は抹消ということになるわけでございます。</p>

	<p>やはり和食というものは高級料理屋さんだけじゃない。やっぱり家庭においても和食は、常日ごろ私たちが食べていくべきものであるというところではございますが、それが段々と家庭の中では薄れてきてしまっているというのが現状ですので、そういったところも、どこの分野だったのでしょうか、和食を取り入れて実践していきますというところもございましたね。</p> <p>2～3年前に宮城県の家庭料理の調査をさせていただいたことがありまして、60歳70歳代の方たちに聞き取り調査をさせていただきました。皆さんのおやつはどんなものでしたか？とか、どういうものを伝えていきたいですか？という話をいろいろと伺ったんです。</p> <p>そのときの三世代家族のおばあちゃんのお話ですが、やはり家が田んぼ、畑があるお家ですから、田植えとか稲刈りの時期になりますと、地域の人たちがお手伝いに来てくれて、その後食事を提供させていただいて、今日はお疲れ様でしたということで、そのおばあちゃんが一生懸命つくって、手伝いに来てくれた方々に自分なりのものを食べていただいた。食べていただいた方々は「今日ほうまかったね」と言って帰って行ったそうです。</p> <p>ところが息子さん夫婦が「ばあちゃん、なんであんなうまくないものつくって出したの？」と言ったことで、そのおばあちゃんはもうガクッときてしまったと。手伝いに来てくれた皆さんは「おいしかったですよ」と言って帰って行ったのです。でも息子さん夫婦に「なんであんなうまくないものつくって食べさせたんだ」みたいなことを言われて、自分のはっかりしてしまったという。それだけ世代間での食嗜好が随分変わってきたのかなというイメージがあります。</p> <p>ですので和食の推進ということも重点課題のうち、ということになっているわけでございますね。それから推進の柱の③ですね。食品ロス削減など食の循環、環境を意識した取り組みを加えることについて、イメージできるように、既にもう取り組んでいらっしゃるというところがあれば、ご紹介いただきたいと思います。</p> <p>宮城県生協連さんの渡辺委員、いかがでございましょうか。産地見学とか生産者訪問とか、一緒に稲を育てるなどといった取り組みをされていらっしゃるかと思います。何かご意見等ございましたら。</p>
渡辺委員	<p>取り組みの前に推進の柱の③のところ、地産地消を進めようというところから、環境を意識した取り組みを一緒にするという柱になっておりますけれども。例えば地産地消推進する上で、地場産品を食べましょう、旬の食材を食べましょうっていう流れだったらわかるのですが。こ</p>

	<p>こになぜ環境を意識した取り組みが果たしたかというのがちょっとよくわからなくて、質問しようかなと感じておりました。</p> <p>食の循環というところでは事例を出してみますと、うちの構成団体のところでもいろいろ取り組みをしているんですけども、これがイコール食育につながるかっていうのは、ちょっと私も定かじゃないんですけども、よろしいでしょうか。</p> <p>みやぎ生協の事業として、事業所のところから出る廃棄物、食品残渣ですね。そちらを自主収集、分別、再資源化、廃棄物の排出の抑制などを行うことによって、環境負荷の低減を図るという活動をしております。</p> <p>具体的にはリサイクルセンターというところにその残渣を持って行き、現在は eco-feed (エコフィード) 方式と言って、食品残渣の乳酸発酵による飼料化、その機械を導入しまして、提携している豚肉の業者にその飼料、乳酸液状化の飼料を届けて、その飼料によって、豚肉を育ててもらって、それがまた豚肉として私たちが口にするという、そういうような循環型の事業を行っておるところです。</p> <p>それから食品ロスの削減については、こちら事業の事例のところ、環境局がもう既に取り組んでおられるフードバンク、それからフードドライブ、そちらの取り組みをみやぎ生協では既に提携事業所と一緒にフードバンクの取り組みを行って、さまざまな施設にお届けしているという取り組みがございます。</p>
高澤会長	<p>まさにそれが環境を意識した取り組み等にもなるのかなと思うのですけれども。フードバンクですね。</p>
健康政策課長	<p>それでは最初のご質問の、地産地消と食品ロスというところが一緒になっているということについてでございますが、国の第3次計画の資料をもう一度ご覧いただきまして、1ページ目の裏面の5つの重点課題の④のところ、食の循環が記載されています。</p> <p>こちらの説明では、国民自らが食に対する感謝の気持ちを深めていくには、生産者をはじめ、多くの関係者に食が支えられていることを知ることが大切であるということで、さまざまな関係者が連携しながら食べ物の循環を意識し、食品ロス削減等にもつながっていくということがございます。</p> <p>後期計画においても、地産地消を進めようということで、生産者の皆様との交流や体験というようなことも盛り込んでおりますので、そういった身近な地域で食材をつくっている過程を見て地域の食材を食べるといふことと、食に感謝をし、食品ロスを削減して、環境にも配慮するといふことは関連づけて考えていけるかなということで、この柱の中に1つ</p>

	<p>にしてみたという、事務局の案でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございます。それからみやぎ・環境とくらし・ネットワークの菅原委員から、4R、エコクッキングなどもされていらっしやっただかと思っておりますので、その辺をお話いただけますか。</p>
菅原委員	<p>平成28年度の食育推進事業で、私どもの団体で、4Rエコクッキングという取り組みを実施しました。みやぎ生協さんが言われていた企業からの取り組みではなくて、簡単な料理教室の講座を開いていまして、それに参加してくださった方々に、普段の家庭から出る生ごみを減らして食品ロス削減につなげるということを伝えています。</p> <p>例えばピーマンの種、実は食べられるんですけど、そういうのを使ってスープをつくったり、あとは、ナスのヘタをぎりぎりまで切ったり。</p> <p>あとは環境団体なので、エネルギーの話にもなりますが、野菜を茹でたお湯を使ってそのままスープをつくったり、国民一人あたりだいたい茶碗1杯分くらいの、一日あたりですね、食品ロスが発生しているという情報の提供などを行っています。家庭の生ごみの中でも、手つかずのままの食品っていうのはやっぱりあるんですよね。また、加工食品は手軽に買えると思うのですが、やっぱり手作りのありがたいと言いますか、そういうのも薄れてきていると思うので、丁寧に食事をつくって、皆さんでおいしくいただきますをしましょうということも伝えていくような講座を実施しておりました。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございます。これまでの4つの推進の柱を核といたしまして、さらなる強化、拡充を目指していただければと思います。ありがとうございます。そのほかございますか。はい、お願いいたします。</p>
齋藤委員	<p>先ほどみやぎ生協さんがおっしゃった事は私も少しそのところに違和感がありまして、どうしても地産地消と環境というのを一緒にするのは無理があるか、どうしてもどちらかが入ってきてしまって、本当に食品ロスのごとは大変重要な問題でもありますし、先ほどの事業計画の中の27ページにも環境局様のほうで書かれていた、もったいないキッチンですとか、これについてご説明はありませんでしたが、このような推進と一緒にされるということであれば、やはりこれに関してははっきり分かるように、どうしても地産地消と環境となると、どちらもぼけてしまうというか、難しいのかなと思っております。</p> <p>また、先ほど亀山委員もおっしゃいましたが、食を通じた健康づくりというのはその価値観の問題で、皆さんで共有したいということがあり</p>

	<p>ましたので、やはりこの推進の柱の①には、右の部分に食を通じた健康づくりを次の世代に伝えるというのが、黒ポツの5番目にありますが、この食を通じた健康づくりを、みんなで意識を共有するというのが、まず一番最初に必要ではないのかなと思いました。また資料2のところに、食育推進計画がいきいき市民健康プランという大きな中で連動し、農業施策の方向性ですとか、健やか子育てプランとか、体の育成プランのような計画と有機的につながりを持ちながら進んでおり、単独に進んでいるものではないという意識をきちんとどこかに打ち出していないと、なかなか食育だけ取り出しても難しいのかなと思いましたので、この図柄をまず皆さんで一度共有して、その中で食育を機能させていくという意識をまず持たないといけないのかなと思いました。</p> <p>資料6の推進の柱②の右の部分にも、地域の食文化を伝えあうというところで、食事のマナーを身に着けて、自然の恵みや食に関わる人々への感謝の気持ちを育むというところでは、もったいないという意識を伝えていくというようなこともあるから、食の循環ということであれば、こことも関連があるのかなと思いました。</p> <p>今、高齢者の方々向けの、お弁当の配送などがものすごく拡充して、大分需要があるようですので、皆さんで揃っての共食の形もいろいろありますし、配達のお弁当も、その中のバランスを配達の人から聞いて学んだりしているというような実態もお聞きしておりますので、新たな食の実態に合わせた策定の文言も考えていくべきなのかなと思いました。ちょっと長くなりましたけれども、どうぞよろしく願いいたします。</p>
高澤会長	<p>推進の柱の3番の地産地消、環境を意識した取り組みというところでございますが、この辺をもう少し検討したほうがよろしいのではということでございますが、いかがいたしましょう。</p>
保健衛生部長	<p>保健衛生部長の石澤でございます。先ほど生協さんからご意見いただいたときにもお答えはしたところですが、一応国の計画の2ページ目でしたか、このところに書いてあるもののほかに、3ページ目の日本の食の循環や環境を意識した食育の推進というところに、例えば学校給食における地場産物を使用する割合とか、そのような目標も入っているということもあったので入れたということと、そもそも食育、食べる力と言いますか、それを通じた健康づくりという視点での大きなものがこの推進の柱のほかの①②とか④ですね。</p> <p>極端なことを言うと地元のものでなくても、健康という面ではあまり関係ない。この計画以外の部分で、経済局では地産地消、環境局のほうでは環境についてがっちり書くわけですが、食育の計画としては地産地</p>

	<p>消と合わせてもいいのかなというところで、事務局としては考えたところでは。</p> <p>委員の皆さんから、複数のご意見をいただきましたので、今後意見シートでご意見もいただくこととしておりますので、事務局のほうでも今日いただいた意見も参考にしながら、検討したいと思います。皆さん方もぜひご意見を積極的にこの部分についていただければありがたいなと考えております。よろしく願いいたします。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。そのほかございますか。</p> <p>本日委員の皆様からさまざまなご質問、ご意見をちょうだいいたしました。仙台市の食育はこの会議の委員の皆様方をはじめ、食に関係するさまざまな団体、機関、行政が連携協働して進めていくものでございますので、皆様で課題を共有し、後期の取り組み、目標を明確にできるような計画を策定していきたいと考えております。これからもご意見、情報等をよろしくお願ひしたいと思います。それでは最後に（3）のその他でございますが、委員の皆様、あるいは事務局から何かございますか。</p>
菅原委員	<p>それでは冒頭の資料の一覧のところでもご説明いただきましたが、皆様にご協力のお願ひという文書が、多分資料の一番下にあるかと思えます。A4の1枚ものになります。私どもの団体で、先ほどの平成29年度の取り組みの中にも入れさせていただいていましたが、「オーガニック・ウィーク・センダイ」と、「環境紙芝居の上演」という、こちらがネオニコチノイド系農薬の紙芝居なんですけれども、その2つの企画についてご協力をお願いいたします。</p> <p>下記の概要をご覧いただいて、ご協力いただける企業、団体、学校、個人様がおりましたら、お問い合わせ先までご連絡をいただきたいと思っております。</p> <p>少し具体的に説明をさせていただきますと、オーガニック・ウィーク・センダイ、こちらは先ほど報告もいたしました。2017年の11月3日から11月12日にオーガニック・ウィークというキャンペーンを大々的にしまして、その期間中にこちらのロゴを使って、飲食店や市場、朝市夕市ネットワークという団体も関わっていただいているんですけれども、そういったところでのぼり旗などを掲げたり、企業の方々にもご協力いただいております。有機作物を販売する際に、こういったのぼりやポスターを掲げていただいて、この期間中に、オーガニックというものに興味がなかった方々にもちょっと意識を変えていただく。</p> <p>オーガニックって簡単には言えない、難しい中味でもあるんですが、実行委員会を組んで実施しているんです。この期間中にイベントやセミ</p>

	<p>ナーだったり、交流会、生産者と直接交流するような交流会などを企画しておりますので、皆様方におかれましても、直接こういうイベントに足を運んでいただだけでも非常にありがたいです。また、何かオーガニックに関するイベントなどをこの期間中に開催できるようであれば、ぜひ URL のところ、後でちょっと見ていただきたいと思います。そちらにイベントについて載せることもできますので、ぜひご協力いただければと思います。</p> <p>次に環境紙芝居の上演ですが、こちら期間は特にございません。今、先ほどの計画の中にもありましたネオニコチノイド系農薬の紙芝居を作成中です。それ以外にも「ありがとう ごはんつぶマン」とか「スイッチ忍者」とか「モッタイナイむらのモッタくん」という紙芝居を、当団体で持っているんです。そういったものを上演する機会を探している最中でして、区民まつりとか、PTAのお祭りなどもあるかと思いますが、もしご迷惑でなければ、呼んでもいいですよということがありましたら、ぜひこの問い合わせ先にご連絡をいただければと思います。</p> <p>この情報だと少ないと思うので、何かご不明な点等ありましたら、ぜひ問い合わせ先のほうまでご連絡いただければと思います。以上です。</p>
高澤会長	ありがとうございます。はい、お願いします。
健康政策課長	<p>では事務局からのお願いでございます。後期計画につきましては本日皆様からいただいたご意見を踏まえまして、修正を加えまして、後期計画の目標、指標、具体的な取り組み内容について、7月中旬に意見照会をさせていただき予定でございますので、どうぞよろしくお願いいいたします。第2回目の食育推進会議に向けて、中間素案を策定してまいりたいと思っております。第2回の食育推進会議の日程でございますが、10月の中旬から下旬をめぐりに開催予定でございますので、またご案内をお送りいたします。どうぞよろしくお願いいいたします。</p> <p>また、平成29年度の食育推進事業取り組み事例集でございます。28年度のものをお届けしたところでございますが、平成29年度もまたこの事例集の作成をしてまいりたいと思っております。この後、正式に依頼文書を送付させていただきますが、写真などがございまして、取り組みの内容が非常にわかりやすいということがございまして、ぜひ記録を残していただきつつ、事例集の作成にもぜひご協力いただければと思います。よろしくお願いいいたします。</p>
高澤会長	ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。ないようでございますので、以上で議事を終了させていただきます。皆様からさまざまなご意見をちょうだいいたしましてありがとうございます。では

	事務局に進行を引き継ぎたいと思います。
進行	以上をもちまして平成 29 年度第 1 回仙台市食育推進会議を閉会いたします。委員の皆様、ありがとうございました。
	—了—

平成 年 月 日

署名委員